

番号	28	地蔵菩薩像		
所在地		唐津市肥前町瓜ヶ坂		
災害別		昭和28年（1953）6月28日（28水）地すべり		
目的別		慰 霊	建立年	昭和32年5月10日
特記事項				



昭和28年6月、梅雨前線の北上により、西日本では大雨となり、特に九州では、福岡、佐賀、熊本などに甚大な被害が発生、後に28水と語り継がれる大災害となった。

佐賀県地方では、6月25日早朝から28日にかけて大雨となり、県内の主な河川は25日夜半から26日朝までに、いたる所で決壊し大洪水となった。

「佐賀県災異誌」(S39, 4, 30 佐賀県防災課発行)によれば、28日までの4日間の総雨量は、鹿島、嬉野方面で500mm程度であったが、その他の平坦部では600mm、古湯、三瀬などの山間部では900mmで、一年間の雨量の半分に近く、想像を絶する量であったと記している。また、この大雨により、当時の東松浦郡、小城郡、杵島郡では各地で地すべりが発生した。

このうち、肥前町切木村瓜ヶ坂(現在の唐津市肥前町瓜ヶ坂)では、6月28日、午後3時半ごろ、幅約150メートル、長さ約700メートルにわたり棚田の斜面がすべり落ちた。これにより、一瞬にして家屋9戸が埋没、住民35名が生き埋めとなり、死者20名、行方不明者5名、重軽傷者8名の大惨事となった。

また、地すべりにより陸路が寸断されたため、救援隊が船で現地に向かったほか、犠牲者のご遺体も遺体運搬船により運ばれたという。

この地蔵菩薩像は、瓜ヶ坂の棚田を見下ろす墓地の前に建立されている。その台座には昭

和二十八年六月二十八日 水害死亡者と記され、犠牲になられた方々の氏名と年齢が刻まれている。そこには子供の名前も多い。地藏菩薩像には今でも地元の方々により花が手向けられている。



国土地理院電子国土 Web



瓜ヶ坂の棚田